

肝要かつ主流なキャプティブにおける 21世紀のリスクマネジメント

キャプティブ・ベンチマーキング・レポート 2012年版
エグゼクティブ サマリー



グローバル・キャプティブ・ソリューションズ リーダーシップチーム (2012年)



前列 : Ellen Charnley, Julie Boucher, and Marc Allen

後列 : Jill Husbands, Ian Clancy, Michael Cormier, Chris Varin, Arthur Koritzinsky, and Jeff Melnick
William Thomas-Ferrand もリーダーシップチームの一員です。

はじめに

かつて、キャプティブ保険会社は代替的リスク移転手法の一つと考えられていました。1970～80年代における保険マーケットのハード化は、受け入れがたい契約条件や料率、不十分な保険金額、あるいはどのような条件でも全く保険を買えない企業保険市場に直面し、保有を余儀なくされた多くの企業に対して、自社リスクをファンディングし、うまくコントロールするためのベークルとしてキャプティブの設立を促すことになりました。

そのような企業・組織にとって、子会社であるキャプティブや同様のベークルが、ハードマーケットに対処するための急場しのぎの措置どころか、もっと価値のある手法であることに気付くのに、多くの時間はかかりませんでした。

この第5回マーシュ・キャプティブ・ベンチマーク・レポートでは、前回同様、キャプティブの活用効率を最適化するための様々な経営判断に資するリアルタイムかつ最新の実務情報を掲載しています。世界中に広がる1,200以上ものキャプティブから調査・抽出したデータの分析結果をご覧になれば、金融業界は言うまでもなく、世界経済、地域経済、そして災害リスクそのものがもたらす経済的ダメージといった、不安定であり続ける外部環境とは対照的に、キャプティブ・ファイナンスの有効性、柔軟性そして安定性を改めてご認識いただけることでしょう。

キャプティブの活用とその効果は、企業の内外に跨る多くの要因に連動しています。外部要因としては保険マーケット状況、予見される将来の経済環境、特定のドミサイル（キャプティブ設立地）における規制環境や他地域との比較優位性が挙げられます。

本レポートに掲載されている「エグゼクティブ・サマリー」では、データ分析の基礎となる多くのパラメータに関する解説に紙面を費やしています。それに続く「分析結果へのガイダンス（目次）」は、貴社にとって必要となるデータや解説へのアクセスに大変有効でしょう。掲載されている属性情報としては、キャプティブ・オーナーの地域別・業種別分布、ドミサイル・ランキング、オンショア・オフショア比較、キャプティブの種類、キャプティブが引受ける保険種目、再（再）保険の活用の有無、財務レシオ等が挙げられます。

これらのファクターはダイナミックに動いたり、相互に影響を及ぼしあうことを考えると、キャプティブをもっと効果的に活用したいと真剣に考えているオーナーには、自社組織の動きに目を光らせるだけでなく、キャプティブ・ファイナンスという広い世界の動向にも注視していくことが求められています。このような広い世界を網羅的かつ明確に描き出し、従来同様、貴社の発展に資することが本書の目的です。

マーシュ・グローバル・キャプティブ・ソリューションズを構成する450名以上のチームを代表して、本レポートにご興味をお持ちの皆様にご感謝の気持ちをお伝えすると共に、日々進化し、新たに生まれるニーズを先取りするような、あるいは合致するような金融商品やサービスをこれからも生み出し続けていく所存です。



マイケル S. コーミア
マーシュ・リスク・ソリューションズ CEO

エグゼクティブ・サマリー

キャプティブ・ファイナンスは、明確に定義されたリスクマネジメントとリスクファンディングの目標を外部環境に左右されずに達成するための効率的かつ効果的な手段と位置づけられている。キャプティブは、世界経済ならびに金融業界における大きな混乱や強い緊張状態において、その戦略的価値、堅牢性、安定性を発揮してきた。過去15年に渡り、我々は次のような事象を目のあたりにし、実際に体験してきた：

- アメリカ同時多発テロ事件のトラウマ
- 数え切れないほどの企業の不正行為
- 今日も続く、金融変動、経済活動の不確実性、予見できない変動
- 広がり行く相互依存関係を通じて世界中を震撼させた数々の巨大自然災害
- 各国経済が相互に関連しているという多くの事実
- ステークホルダー、取引相手、行政当局、格付機関の側に持ち上がっている経営全般への制度化されたガバナンスに対する期待や要請

変わりゆくリスクという新たな現実に対して、今日ほどリスクマネジメントの効果が期待されている時代はない。頻度、規模、そして「ブラックスワン」とよばれる非常に稀な事象に関する先入観は、文字通りそして比喩的な意味においても完全に吹き飛ばされてしまった。さらに、グローバル化が進むにつれて、リスクマネジメントがもたらす潜在的なインパクト、すなわち(経済的)価値もまたかつて無いほど高まっているのである。

レポート・ハイライト

エグゼクティブ・サマリーに続く「分析結果へのガイダンス(目次)」は、掲載されているデータ、分析、解説を容易に参照するためのガイドである。貴社の事業プロフィールやリスク・プロフィールが他社のそれとは異なった独特のものであったとしても、レポートのどこかに最も関連のあるテーマが記載されていると期待している。

以下のように調査の過程で得られた知見をサマリーとして掲載する。レポート全体に目を通すための指針としてご活用いただきたい。

キャプティブ所有者の業種・キャプティブの種類

- ベンチマーク対象のキャプティブ(以下、「対象キャプティブ」)の多くは、単一の主体に所有されている。所有者の大半は北米に本拠を構えており、欧州・中東・アフリカ圏がそれに続き、アジア・太平洋州は相対的に小さな割合である
- マーケットトレンドに合致する形で、対象キャプティブの大部分は1990年以降に設立されている
- レンタキャプティブ、保護セル会社、リスク保有組合などの特殊なキャプティブを利用する事例が増加傾向にある

キャプティブ数で見たドミナイル・ランキング

- 私どもが実施したグローバル・キャプティブ・ベンチマーク・サーベイにおける10大ドミナイルは、最大の英領バミューダから始まり、以下、米国バーモント州、英領ケイマン諸島、ルクセンブルグ公国、米国サウスカロライナ州、米国ハワイ州、ダブリン(アイルランド)、シンガポール、チャネル諸島ガーンジー、バルバドスが続く。

オンショア(域内キャプティブ)対オフショア(域外キャプティブ)

- 2000年まで、新たに設立されるキャプティブは域外キャプティブが圧倒的多数を占めていた。このトレンドは今や逆になり、域外と域内がもっとバランスのとれた配分になっている。
- 米国内ドミナイルの中では、米国バーモント州が引き続き最大のドミナイルに位置づけられる。同地には米国内キャプティブの40%以上が所在し、その約60%は米国内企業に所有されている。

- 欧州・中東・アフリカにおいては、ルクセンブルグが域内キャプティブとして好まれる傾向にある。アジア・太平洋州の企業は、その域内キャプティブをシンガポールあるいはハワイ州に設立する傾向が見受けられる。
- 英領バミューダ所在キャプティブは、域外キャプティブの半数以上を占める。
- 英領ケイマン諸島は、ヘルスケア業界のオーナーにとっての域外キャプティブ設立地としての重要な地位を引き続き占めている。

業種別に見たキャプティブ所有者の傾向

- 金融機関が引き続き最大のユーザーであり、小差でヘルスケア業が続く。その他の業種では、小売・消費財業、製造業、電気・ガス・水道会社、建設業がほぼ同じ割合を占めている。
- ヘルスケア業系キャプティブの大半は米国系である。主たる所在地の構成割合は、英領ケイマン諸島（48%）、米国バーモント州（24%）、英領バミューダ（16%）である。
- ヘルスケア業系キャプティブのオーナーは保護セル会社やリスク保有組合といった代替形態の主要ユーザーでもある。
- 英領バミューダは小売・消費財業系キャプティブの主たる所在地である。
- 米国バーモント州は不動産業系キャプティブや建設業系キャプティブの主たる所在地である。

キャプティブの活用状況

- キャプティブ活用の主たる目的
 - 自家保有リスクのファンディング手法の透明化・明確化
 - 主要エクスポージャーに対するリスクコントロールへの関心と統制の向上
 - 再保険マーケットや国内保険プールへのアクセス手段
 - 保険会社が引受けないリスクや保険料率が高過ぎるとみなされるリスクのファンディング手段
- キャプティブが引受けている主たる種目を保険料の大きさの順に並べると、財物、製造物責任を含む一般賠償責任、雇用者賠償責任／労災補償、自動車賠償責任、専門職業賠償責任となる。
- 福利厚生費用をキャプティブでファンディングすることへの関心は引き続き拡大している。導入手順は米国に所在するリスクとその他の地域で異なり、その理由の一つは米国 ERISA 法の要件を充足しなければならないことにある。

キャプティブの財務パフォーマンス分析

In analysing captives' financial performance metrics, we note the following key observations:

- 対象キャプティブのグロス保険料対純資産比率は44%である（記者注：絶対的な適正值はないが、数値が小さければ超過資本状態、大きければ過少資本状態を表す）
- 総保険料対事業経費率が2%であることから、自家保険スキームとファンディング目標を達成する上で、キャプティブが比較的低コストな手法であることがわかる。
- キャプティブには保険金を上回る資金が保険料として投入されており、その結果、損害率は89%となっている。
- キャプティブの資産運用収益率は約3%である。
- 域内・域外を問わず、キャプティブは引受保険料の大半（89%）を保有し、再（々）保険は例外的にしか購入していない。

保険当局の見解

マーシュのキャプティブ担当プラクティスのリーダーらが世界の主要なドミサイルの当局へインタビューを実施した結果、以下のような意見を得た：

- 米国内ドミサイル第1位のバーモント州は、キャプティブ業界全体をより良い存在にすべく、知識を伝達することで他のドミサイルを支援することに熱心である。
- キャプティブ保険法を導入する州が年々増加し、キャプティブオーナーの興味を惹きつける新機軸を模索する状況が続いており、米国内ドミサイルのリストは毎年拡大している。
- EU 内ドミサイルの多くは、キャプティブを設立したいと考えている企業への便宜を提供するという受身のスタンスをとる傾向が強く、誘致活動はそれぞれの業界団体に依存している。
- EU 内ドミサイルの最重要課題はソルベンシー II 指令への対応である。予想される様々な要請に応えるための人材配置を多くの当局が行っている。EU ソルベンシー II 指令は予定通り2014年1月1日施行されることになっている。

マーシュについて

保険仲介およびリスクアドバイザーの世界的リーディングカンパニーである Marsh Inc. は、世界 100 ヶ国以上でそのサービスを提供しています。従業員数は約 26,000 名です。マーシュブローカー・ジャパン株式会社はマーシュ・インクの日本における拠点のひとつです。マーシュは、グローバル・プロフェッショナル・ファームである Marsh & McLennan Companies (MMC) の一員であり、MMC はマーシュの他、ガイカーペンター（リスクおよび再保険スペシャリスト）、マーサー（人事関連コンサルタント）、そしてオリバーワイマン（経営コンサルタント）の各社を傘下に置き、総従業員数は約 53,000 名、年間総収入は 110 億米ドルを超え、ニューヨーク、シカゴ、ロンドンの各証券取引所に上場しています（銘柄コード：MMC）。

マーシュのキャプティブ・ソリューションズ・プラクティスについて

マーシュのキャプティブ・ソリューションズ・プラクティスはキャプティブ・アドバイザリー・グループ、キャプティブ・マネジメント・サービス、そしてキャプティブ・ソリューションズ・アクチュアル・グループから構成されます。世界で 450 名以上の従業員が 1,220 社以上のキャプティブ保険会社にサービスを提供しております。40 年以上 18 カ国にマネジメントオフィスを構える他、世界各国のブローカーオフィスに専門コンサルタントを配置しております。

キャプティブ・アドバイザリー・グループはキャプティブ保険専門のコンサルティング部門です。アドバイザーの専門チームは各地域のキャプティブ保険推進者と協同で、フィージビリティスタディの作成からキャプティブ保険会社のスキーム設計、導入に関するサービスを提供しています。このグループはキャプティブ保険専門のトレーニングも提供しております。

キャプティブ・マネジメント・グループはキャプティブ保険会社の設立、運営管理の業界リーダーです。キャプティブ保険会社の設立決定後から、適切なドミサイル（設立場所）の選択、当局への申請、財務、会計、資金管理、保険サービス等のサービスを提供しております。監査法人、弁護士、アクチュアリー等の外部専門家との関係構築は、各顧客にとって最適な戦略的、経済的利益を保ちながらキャプティブ保険会社が円滑かつコスト効率よく運営されることにつながります。

キャプティブ・ソリューションズ・アクチュアル・グループにはアクチュアリー（保険数理士）有資格者、アクチュアリーアナリストが所属しております。キャプティブ保険会社、自家保険プログラムに特化し、世界の多くのドミサイルにてアクチュアリーサービスを提供しております。

お問合せ

マーシュブローカージャパン株式会社
登録番号 関東財務局長 第29号
リスクファイナンスアドバイザープラクティス
〒163-1438 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー 38階
TEL 03-5334-8290 (代表) FAX 03-5371-4512
www.marsh-jp.com

プラクティスリーダー シニアバイスプレジデント
田嶋 英治
03-5334-8288 (直通) eiji.tajima@marsh.com

岩名 裕子
03-5334-8508 (直通) yuko.iwana@marsh.com

本書に記載の情報は、信頼に値すると当社が信ずる情報源に基づくものであり、一般的なリスク管理及び保険情報としてのみご理解頂くべきものです。

本情報は、個別の状況に対する助言として理解されることを意図するものではなく、またそのように依拠されるべきものでもありません。

Copyright © 2013 Marsh Japan,
Inc./ Marsh Broker Japan,
Inc. All rights reserved.